

平成22年度病虫害発生予報第6号の発表について

向こう 1 か月の主要な病虫害の発生予察情報については、以下のとおりです。

- ・ 水稲では、コブノメイガ、セジロウンカの発生が多くなっています。
都道府県病虫害防除所から発表される発生予察情報を参考に適期に薬剤防除を実施してください。なお、育苗箱施用剤を使用している場合でも、剤の残効期間に留意の上、必要に応じて防除を実施してください。
- ・ 果樹では、果樹カメムシ類の発生が多くなっています。
園内の観察をきめ細かく行い、果樹カメムシ類の飛来が認められた場合は、飛来初期からの防除を実施してください。

病虫害防除に関する留意点

- ・ 病虫害防除を効果的に実施するためには、病虫害の発生状況を的確に把握し、適期の防除につなげることが大切です。病虫害の発生は天候の影響を大きく受けるので、天候の状況に注意しつつ、都道府県が発表する発生予察情報に基づき、地域ごとの防除基準に従って防除を実施してください。
- ・ なお、薬剤防除を実施する場合には、薬剤抵抗性を獲得した病虫害が確認されていることに留意の上、適切な薬剤を選択するとともに、病虫害が薬剤抵抗性を獲得しないように、同一系統薬剤の連続使用を避けてください。また、農薬の使用基準を遵守し、薬剤散布の時期に留意するとともに、散布対象外の農作物等に農薬が飛散しないよう対策を講じてください。

水稲

- ・ **穂いもち**の発生は、北海道の一部地域で「多い」、北東北、東海の一部地域で「やや多い」と予想されます。
葉いもちの発生が多く上位葉に葉いもちの病斑がみられる場合は、穂いもちの発生が懸念されるので、穂ばらみ期及び穂揃い期に薬剤防除を実施してください。なお、穂いもちの多発が予想される場合には、穂揃い期 7 ～ 10 日後の追加防除を実施してください。
- ・ **紋枯病**の発生は、南関東及び近畿の一部地域で「やや多い」と予想されます。
本病は病勢が少しずつ進展することから、発生がある程度認められてからでも薬剤防除を行うことが可能です。穂ばらみ期から出穂期に発生を認めた場合は、発生状況に注意して適期に薬剤防除を実施してください。多発時や出穂期以降に病勢の進展が懸念される場合は、穂揃い期頃の追加防除を実施してください。

(1 / 10)

- ・ **ニカメイガ**の発生は、北関東及び近畿の一部地域で「多い」、北陸及び四国の一部地域で「やや多い」と予想されます。
本害虫は局所的に多発する場合があるので、注意が必要です。本害虫の本田での発生状況を把握するとともに、発生状況に応じて薬剤防除を実施してください。
- ・ **コブノメイガ**の発生は、北陸の一部地域で「多い」、東海、中国、四国及び九州の一部地域で「多い」又は「やや多い」、南関東及び近畿の一部地域で「やや多い」と予想されます。
上位葉に被害が発生するので、本害虫の本田での発生状況を把握するとともに、都道府県病虫害防除所から発表される発生予察情報を参考に若齢幼虫期をとらえた薬剤防除を実施してください。
- ・ **セジロウンカ**の発生は、東海、近畿、中国及び四国の一部地域で「多い」又は「やや多い」、関東、甲信、北陸及び南九州の一部地域で「やや多い」と予想されます。
本田の見回りの際には、稲の株元を注意深く観察し、株元に褐色の点またはすじ状の傷（産卵痕）が目立ち、成虫及び幼虫の発生が多く見られる場合は、都道府県病虫害防除所から発表される発生予察情報で防除適期を確認し、薬剤防除を実施してください。
- ・ **トビイロウンカ**の発生は、九州の一部地域で「多い」又は「やや多い」、近畿、中国及び四国の一部地域で「やや多い」と予想されます。
本害虫は水田に侵入後2～3世代増殖を繰り返し、急激な密度上昇により収穫期頃に大きな被害を起こします。本田内を注意深く観察し、水稻の株元に成虫及び幼虫を確認した場合は、都道府県病虫害防除所から発表される発生予察情報で防除適期を確認し、薬剤防除を実施してください。また、病虫害防除所等で発表される今後の飛来情報に留意するとともに、本田での発生状況に十分注意してください。
- ・ **斑点米カメムシ類**の発生は、北陸及び東海の一部地域で「多い」、中国及び四国の一部地域で「多い」又は「やや多い」、北海道、東北及び関東の一部地域で「やや多い」と予想されます。
本害虫の防除は、休耕田、畦畔及び水田周辺の雑草管理が基本であり、出穂期の10日前までに本田周辺の草刈りを終了させてください。出穂期直前の草刈りは、本害虫の本田への飛び込みを助長し、被害を増加させるおそれがあるので、避けてください。
薬剤防除は穂揃期とその7～10日後の2回実施が標準的です。薬剤防除時期は斑点米カメムシ類の発生種が地域によって異なるので、都道府県病虫害防除所から発表される発生予察情報で防除適期を確認し、薬剤防除を実施してください。

大豆

- ・ **吸実性カメムシ類**の発生は、関東、北陸、東海及び中国の一部地域で「やや多い」と予想されます。
ほ場観察を行い本害虫の飛来を認めたら、適期に薬剤防除を実施してください。
- ・ **ハスモンヨトウ**の発生は、南関東の一部地域で「多い」、東海、近畿及び四国の一部地域で「やや多い」と予想されます。
ほ場観察を行い本害虫の加害の特徴である白変葉の早期発見に努め、適期に薬剤防除を実施してください。

野菜・花き

露地栽培

- ・ 1 か月予報（8 月 6 日気象庁発表）では、北日本では平年に比べて曇りや雨の日が多く、東日本、西日本では平年と同様に晴れの日が多いと予報されています。気温の上昇に伴い害虫の発生も多くなるので、ほ場観察を行い病害虫の早期発見に努め、適期に薬剤防除を実施してください。

施設栽培

- ・ 夏期は、栽培管理上施設を開放する機会が増えるので、病害虫の施設への侵入及び野外への飛び出しに注意が必要です。
- ・ 病害の早期発見に努め、伝染源となる罹病葉や罹病果は除去し、適期に薬剤防除を実施してください。
- ・ アザミウマ類、コナジラミ類等の施設内への侵入及び野外への飛び出しを防止するため、施設の開口部に防虫ネット等を設置するなどの対策を実施してください。また、アザミウマ類、コナジラミ類等の防除は、これらが媒介するウイルス病対策としても有効です。害虫の早期発見に努め、発生初期での薬剤防除を実施してください。これらの害虫の発生源となる施設内及び周辺の雑草を定期的に除去するよう努めてください。
- ・ また、栽培終了後は蒸し込み処理等を行い、作物残渣での生存虫を死滅させてから搬出し、確実に処分してください。

発生が多い・やや多いと予想される病害虫及び地域

作物名／病害虫名	発生が「多い」地域	発生が「やや多い」地域
トマト		
灰色かび病	東北	南九州
アザミウマ類		関東
アブラムシ類		甲信、北陸
コナジラミ類		関東
タバコガ類		甲信
なす		
うどんこ病		南関東
アザミウマ類		関東
アブラムシ類		北陸
タバコガ類	南関東	甲信
ハダニ類		南関東、近畿
きゅうり		

褐斑病	北東北	四国
炭そ病		北東北、甲信、近畿、四国
べと病		近畿、南九州
アブラムシ類		南東北、甲信、北陸
ハダニ類		南東北、甲信、近畿
ねぎ		
アザミウマ類	関東	北東北、北陸、東海、中国
いちご		
炭そ病	九州	東海、中国、四国
アブラムシ類		北陸
きく		
アザミウマ類	東海	甲信
アブラムシ類	北陸	南東北
タバコガ類		甲信、東海
ハダニ類		南東北、北関東、中国
共通		
ハスモンヨトウ	南関東	東海、近畿、中国、四国、南九州

果樹・茶

果樹共通

- ・ **果樹カメムシ類**の発生は、北東北、東海及び中国の一部地域で「多い」、関東、近畿及び四国の一部地域で「多い」又は「やや多い」、北陸及び南九州の一部地域で「やや多い」と予想されます。

本害虫は、園地周辺の山林から飛来してくるので、例年カメムシ類の被害が多い園地や、山林に隣接した園地では、園内の観察をきめ細かく行ってください。また、飛来が認められた場合は、飛来初期からの防除を実施してください。

かんきつ

- ・ **かいよう病**の発生は、東海及び四国の一部地域で「やや多い」と予想されます。本病の伝染源となる発病葉及び発病枝は除去して、確実に園外で処分してください。また、本病は連続した降雨により発生が助長されるので、天候の推移に注意し、適期に薬剤防除を実施してください。

特に、強風による擦れなどの傷口から容易に感染するため、風雨が強まることが予想される場合には、事前に薬剤を散布してください。

- ・ **黒点病**の発生は、四国の一部地域で「多い」又は「やや多い」、近畿及び九州の一部地域で「やや多い」と予想されます。

本病の伝染源となる枯れ枝は除去して、確実に園外で処分してください。また、本病は連続した降雨により発生が助長されるので、天候の推移に注意し、散布間隔が開きすぎないように降雨の合間を見て薬剤防除を実施してください。

- ・ **ミカンハダニ**の発生は、北九州の一部地域で「多い」、中国及び四国の一部地域で「やや多い」と予想されます。

夏期は有用な土着天敵が増殖し、本種の密度を抑制しますが、梅雨明け後に気温が高く雨が非常に少ない天候が長く続いた場合は、本種が多発する場合があります。園内の観察をきめ細かく行い本種の発生量に応じて適期に薬剤防除を実施してください。

りんご

- ・ **斑点落葉病**の発生は、東北の一部地域で「多い」又は「やや多い」と予想されます。

本病は、気温が高く、まとまった降雨が続くと発病が助長されます。また、密植や徒長枝により通風や採光が悪いと発病が多くなります。徒長枝の除去等により通風や採光を確保するとともに、天候の推移に注意し、適期に薬剤防除を実施してください。

- ・ **輪紋病**の発生は、北東北の一部地域で「やや多い」と予想されます。

本病は、降雨により発生が助長されるので、散布間隔が開きすぎないように注意し、適期に薬剤防除を実施してください。また、枝幹のいぼ病斑は本病の伝染源となるので削り取り、削り取り部には薬剤を塗布してください。

- ・ **炭そ病**の発生は、北東北の一部地域で「やや多い」と予想されます。

本病は、降雨により発生が助長されるので、散布間隔が開きすぎないように注意し、適期に薬剤防除を実施してください。本病の発病果は伝染源となるので除去し、適切に処分してください。

- ・ **褐斑病**の発生は、北東北の一部地域で「やや多い」と予想されます。

発病葉は伝染源となるので除去し、適切に処分してください。また、降雨が続くと発病が助長されるので、天候の推移に注意し、適期に薬剤防除を実施してください。

- ・ **ナシヒメシンクイ**の発生は、「平年並」、**モモシンクイガ**の発生は、北海道の一部地域で「やや多い」、**ハマキムシ類**の発生は、「平年並」と予想されます。

都道府県が発表する発生予察情報を参考に、地域ごとの防除基準に従って防除を実施してください。

- ・ **ハダニ類**の発生は、東北及び北陸と予想されます。

園内の観察をきめ細かく行い、本害虫の発生に応じて薬剤防除を実施してください。

なし

- ・ **黒斑病**の発生は、「平年並」と予想されます。

本病は、降雨日数が多いと発生が助長されるので、天候の推移に注意し、適期に薬剤防除を実施してください。

- ・ **黒星病**の発生は、北陸の一部地域で「多い」、関東の一部地域で「多い」又は「やや多い」、東北、甲信、東海、近畿、中国及び北九州の一部地域で「やや多い」と予想されます。
発病葉、発病果及び発病した新梢は伝染源となるので除去し、適切に処分してください。また、降雨が続くと発病が助長されるので、散布間隔が開きすぎないように注意し、適期に薬剤防除を実施してください。
- ・ **ナシヒメシンクイ**の発生は、関東の一部地域で「多い」、北陸、東海、近畿、中国、北九州の一部地域で「やや多い」、**モモシンクイガ**の発生は、「平年並」と予想されます。
都道府県が発表する発生予察情報を参考に、地域ごとの防除基準に従って防除を実施してください。
- ・ **ハマキムシ類**の発生は、北関東及び中国の一部地域で「やや多い」と予想されます。
園内観察を行い本害虫の早期発見に努めるとともに、発生に応じて適期に薬剤防除を実施してください。
- ・ **ハダニ類**の発生は、近畿の一部地域で「多い」又は「やや多い」、南東北、南関東、北陸及び中国の一部地域で「やや多い」と予想されます。
園内の観察をきめ細かく行い、本害虫の発生に応じて適期に薬剤防除を実施してください。

ぶどう

- ・ **べと病**の発生は、九州の一部地域で「多い」又は「やや多い」、北東北、北関東、甲信、東海、近畿、中国及び四国の一部地域で「やや多い」と予想されます。
発病葉及び発病果粒は伝染源となるので収穫後も園地に残さず、適切に処分してください。また、本病は降雨が続く気温が低く経過すると発病が多くなるので、天候の推移に注意し、適期に薬剤防除を実施してください。薬剤防除にあたっては葉裏に薬液が十分かかるように実施してください。
- ・ **晩腐病**の発生は、甲信の一部地域で「やや多い」と予想されます。
発病葉及び発病果粒は伝染源となるので収穫後も園地に残さず、適切に処分してください。また、本病は降雨により分生胞子が飛散して発生が助長されるので、天候の推移に注意し、適期に薬剤防除を実施してください。

かき

- ・ **うどんこ病**の発生は、東海及び中国の一部地域で「やや多い」と予想されます。
本病は気孔から侵入するので、薬剤防除は葉裏に十分薬液がかかるよう実施してください。
- ・ **炭そ病**の発生は、四国の一部地域で「やや多い」と予想されます。
降雨が続くと発生が助長されるので、天候の推移に注意し、適期に薬剤防除を実施してください。
- ・ **カキノヘタムシガ**の発生は、南関東の一部地域で「多い」、東海及び四国の一部地域で「やや多い」と予想されます。
都道府県が発表する発生予察情報を参考に、成虫発生最盛期及び若齢幼虫期をとらえた薬剤防除を実施してください。

茶

- ・ **炭そ病**の発生は、近畿及び南九州の一部地域で「やや多い」と予想されます。
本病の多発が予想される園では、茶園の管理状況に応じて、適期に薬剤防除を実施してください。
- ・ **チャノコカクモンハマキ**の発生は、南関東、近畿及び北九州の一部地域で「やや多い」、**チャハマキ**の発生は、南関東の一部地域で「やや多い」と予想されます。
地域の予察灯やフェロモントラップでの誘殺状況を参考に成虫発生最盛日の7～10日後に薬剤防除を実施してください。
- ・ **チャノミドリヒメヨコバイ**の発生は、南関東、東海、近畿及び九州の一部地域で「やや多い」、**チャノキイロアザミウマ**の発生は、東海の一部地域で「多い」、南関東、近畿及び南九州の一部地域で「やや多い」、**チャノホソガ**の発生は、南関東の一部地域で「多い」、南九州の一部地域で「やや多い」と予想されます。
これらの新芽加害性害虫は、夏期に連続して発生します。新芽の生育状況と害虫の発生状況をよく見極め、同一系統の薬剤の連続使用を避けた上で、適期に薬剤防除を実施してください。
- ・ **クワシロカイガラムシ**の発生は、近畿の一部地域で「やや多い」と予想されます。
本害虫の防除は、適期を外すと防除効果が劣るだけでなく、天敵への悪影響も懸念されます。茶園ごとに幼虫のふ化状況を観察し、防除適期である幼虫のふ化最盛期に薬剤防除を実施してください。

都道府県が発表した警報、注意報及び特殊報

平成22年7月22日以降、都道府県が発表している警報、注意報及び特殊報は下記のとおりです。

警報

発表日	都道府県名	作物名	病害虫名
8月5日	鳥取県	果樹	果樹カメムシ類

注意報

発表日	都道府県名	作物名	病害虫名
7月22日	北海道	水稻	斑点米カメムシ類
7月22日	長野県	ぶどう	べと病
7月22日	愛知県	水稻	斑点米カメムシ類
7月22日	愛知県	もも、なし、ぶどう、かき、かんきつ	果樹カメムシ類
7月22日	広島県	水稻	セジロウンカ
7月22日	高知県	かき	チャバネアオカメムシ

7月26日	宮崎県	水稲	トビイロウンカ、セジロウンカ、コブノメイガ
7月27日	群馬県	もも、なし、りんご、ぶどう等	果樹カメムシ類
7月27日	鹿児島県	水稲	コブノメイガ
7月28日	岐阜県	なし、もも、かき、りんご、みかん等	果樹カメムシ類
7月28日	兵庫県	なし、ぶどう、りんご、かき、かんきつ類等	チャバネアオカメムシ
7月28日	福岡県	いちご	炭そ病
7月29日	広島県	水稲	コブノメイガ
7月30日	静岡県	水稲	斑点米カメムシ類
8月4日	京都府	果樹	果樹カメムシ類
8月4日	香川県	いちご	炭そ病
8月6日	岩手県	りんご	果樹カメムシ類
8月6日	山形県	水稲	斑点米カメムシ類
8月6日	鹿児島県	水稲	トビイロウンカ
8月10日	北海道	水稲	斑点米カメムシ類

■ 特殊報

発表日	都道府県名	作物名	病害虫名
7月23日	埼玉県	うめ	ウメ輪紋ウイルスによる病害
7月23日	大阪府	うめ	ウメ輪紋ウイルスによる病害
7月23日	奈良県	うめ	ウメ輪紋ウイルスによる病害
7月29日	秋田県	小麦	コムギ条斑病
7月29日	長野県	ヒメユリ	ジャガイモクロバネキノコバエ
7月29日	長野県	りんご	リンゴ葉巻萎縮病（仮称）
8月3日	鳥取県	ねぎ	黒腐菌核病
8月4日	新潟県	大豆	ダイズ縮葉モザイク病（仮称）
8月5日	群馬県	トマト	トマト黄化病

用語解説

■ 地域

- ・ 北海道：北海道
- ・ 東北：青森県、岩手県、宮城県、秋田県、山形県、福島県
 北東北：青森県、岩手県、秋田県
 南東北：宮城県、山形県、福島県
- ・ 関東：茨城県、栃木県、群馬県、埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県
 北関東：茨城県、栃木県、群馬県
 南関東：埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県
- ・ 甲信：山梨県、長野県
- ・ 北陸：新潟県、富山県、石川県、福井県
- ・ 東海：岐阜県、静岡県、愛知県、三重県
- ・ 近畿：滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、奈良県、和歌山県
- ・ 中国：鳥取県、島根県、岡山県、広島県、山口県
- ・ 四国：徳島県、香川県、愛媛県、高知県
- ・ 九州：福岡県、佐賀県、長崎県、熊本県、大分県、宮崎県、鹿児島県
 北九州：福岡県、佐賀県、長崎県、大分県
 南九州：熊本県、宮崎県、鹿児島県
- ・ 沖縄：沖縄県

■ 発生量（程度）

- ・ 多い（高い）：やや多いの外側 10%の度数の入る幅
- ・ やや多い（やや高い）：平年並の外側 20%の度数の入る幅
- ・ 平年並：平年値を中心として 40%の度数の入る幅
- ・ やや少ない（やや低い）：平年並の外側 20%の度数の入る幅
- ・ 少ない（低い）：やや少ないの外側 10%の度数の入る幅

（平年値は過去 10 年間の平均）

■ 平成 22 年度病虫害発生予報の発表予定

- 第1号：4月22日（木曜日）
第2号：5月20日（木曜日）
第3号：6月17日（木曜日）
第4号：7月8日（木曜日）
第5号：7月22日（木曜日）
第6号：8月12日（木曜日）
第7号：9月9日（木曜日）
第8号：10月7日（木曜日）
第9号：11月11日（木曜日）
第10号：2月17日（木曜日）

お問い合わせ先

消費・安全局植物防疫課

担当者：防除班・黒谷、金武

代表：03-3502-8111（内線 4562）

ダイヤルイン：03-3502-3382

FAX：03-3502-3386

当資料のホームページ掲載 URL

<http://www.maff.go.jp/j/press/>